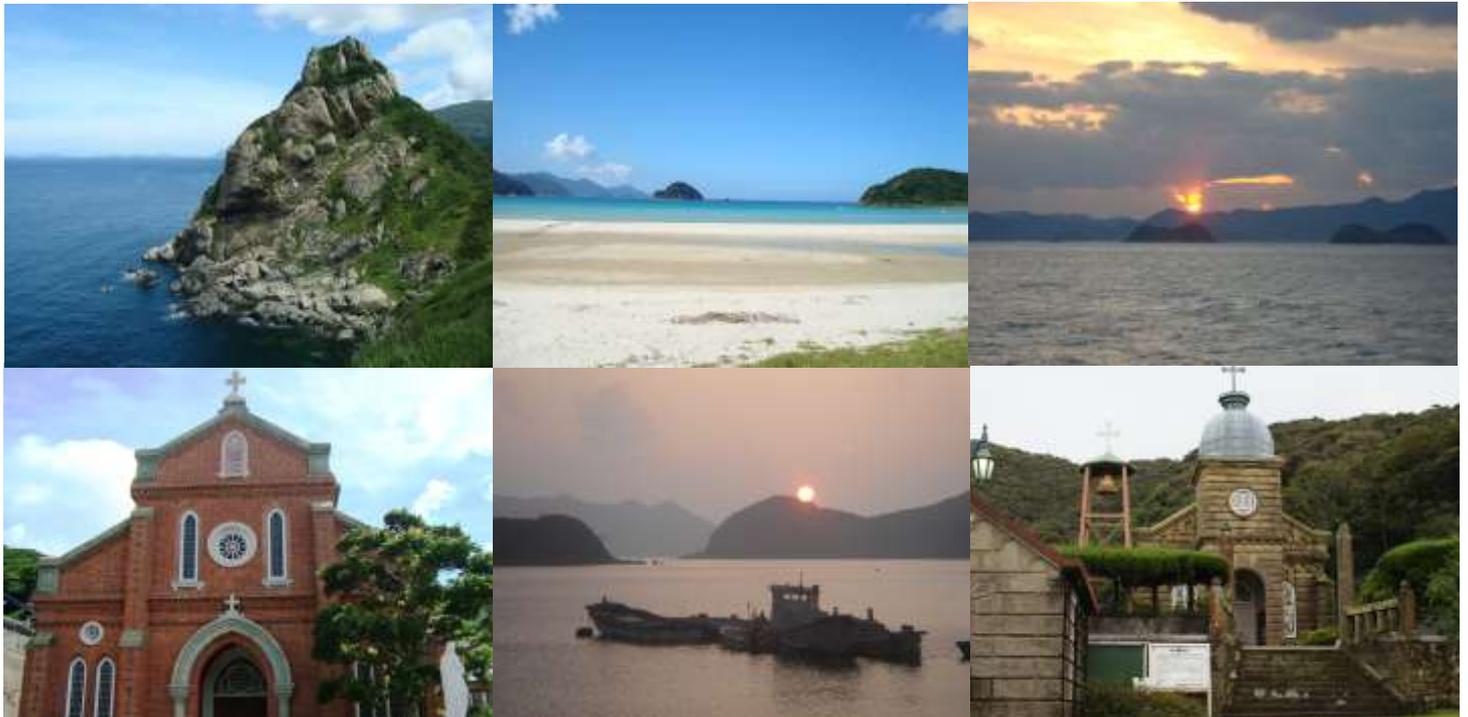




あじさいネット OFF LINE 通信 vol. 7



上五島の初夏の風景

写真提供：八坂 貴宏 先生（長崎県上五島病院）

目次

会員様の声

むたクリニック	牟田 幹久 先生	2
藤井外科医院	藤井 卓 先生	3
中村内科	中村 貴 先生	4
アクア薬局	佐田 悦子 先生	5

情報提供病院のご紹介

長崎県上五島病院 地域医療連携室	6
------------------	---

あじさいネット キーパーソンに聞く SEC 伊藤 龍史 氏

7

寄稿 あじさいネットを利用した高品質遠隔画像診断 長崎大学病院放射線科 上谷 雅孝 先生

8

離島・救急医療支援/高品質遠隔画像診断システムについて

9

あじさいニュース テレビ会議システム/第4回あじさいネット研究会

10

現在の運用状況

(平成 25 年 6 月 15 日現在)

患者登録数	27,932 名
(全件あじさいネット説明同意書取得済み)	
会員数	329 名
情報閲覧施設数	192 施設
(内、薬局数 32)	
情報提供病院数	19 施設

賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株) 医療ソリューション事業部
- 三菱化学メディエンス(株)
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ ライフサポート事業本部
- 山下医科器械 (株)

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。



ネットワーク作りも人間関係も、どちらも一緒に進めていくことが大切。



S60年 久留米大学医学部卒
H9年 みたクリニック勤務
H12年 みたクリニック継承

■長崎県医師会常任理事
■あじさいネット設立時より理事

この九年間で学んだこと

九年前、大村市の中でもっと先生たちと情報を交換し合うということが目的で、自分の専門外のことまで気軽に地域の開業医の先生や医師会仲間の先生に聞くシステムが作れないかと思つて始めたのが「あじさいネット」です。

この九年間の経験で私が学んだ事は、いくらITのシステムだけが優れていてもいいものを作れないし、逆に人間関係だけ良好だったとしても、それでは従来と何ら変わらないということ。「ITシステムを進化・充実させていく事」と人間関係を構築していく事」この両方を一緒に進めていかないと、皆から望まれる地域医療連携ネットワークには育つていけないんですね。だから、運営委員会や地域部会、メーリングリストといった場で、「こんなこと出来たらいいね。」「これはセキュリティ上、慎重に検討しないとイケないですね。」という話がざつとばらんにできる人間関係を作らないといけない。そして会員の意見をシステムに反映させて運用していくことであじさいネットは県内に広がるネットワークへと育つてきました。

大村市古町

みたクリニック

む た み き ひ さ

牟田 幹久 先生 先生

守るべきこと、変えていくべきこと

現在、病診連携が先行してしまい「拠点病院の診療情報を共有するあじさいネット、地域医療連携のあじさいネット。」というふう

に全国に広がっています。しかしながら、当初、私はあじさいネットを通して医師会の開業医の先生同士の横のつながり、つまり「地域の医師会員同士で、医局の中にあるみたいに自分の専門外の治療法などの様々な事をフランクに相談できる」、そんなシステムを作りたいなと思って。おおもとは「地域全体で医療をやりましょう。そうすることによって、患者さんにも医師会員にもそれぞれメリットが生まれますよ」という考えです。

当初、私が目指したシステムにはまだ行き着いていない現状ですが、今度、Secureメールやノート機能加わり、徐々にではあります。が横のつながりも実現できるようになりつつあります。

現在、医療現場でのiPad利用も長崎大学病院の松本准教授が中心になり進めています。

当初は、VPNルータ経由の利用のみ認めていましたが、それでは在宅医療現場でのニーズに対応できませんので、検討を重ね試験運用にいたしました。このように時と共に九年前は視野にいれていなかったことすらも出来るようになりました。従来やりたくても出来なかつたことに対して技術が追いついてくれればまた実現できることもあります。

システムには、「ここは絶対変えてはいけないことと、変えていくべきこと。」があります。

自分らも、時代に合わせ柔軟に考え方を変えていくことは、やっていかなければならないと思います。あじさいネットに架ける夢を教えてください。



昔は、一人の医師やひとつの病院で、一人の患者さんを診ていました。しかし、医療が専門化、細分化した現在では、一人の医師やひとつの病院だけでは、患者さんの複数の病気や、急性期から回復期、慢性期といった多種多様な状態に対応できなくなってきました。多種多様な患者さんの状態に、柔軟に対応するためには、地域全体が連携する必要があります。ネットは、この連携をよりよく行うためのツールだと思っています。このツールを以って、地域の中で一つの医局といった雰囲気と、協体制を作れないかなというのが、私のあじさいネットに架ける夢です。

ほとんどの開業医は、最初は勤務医だった先生方で、千差万別色々ありますが、以前は拠点病院に勤務して実力をもって開業しています。

折角、それぞれがいいものを持っているのに地域の中でお互いに使わないと勿体ないですね。

●●牟田先生にお聞きしました●●

Q. 趣味

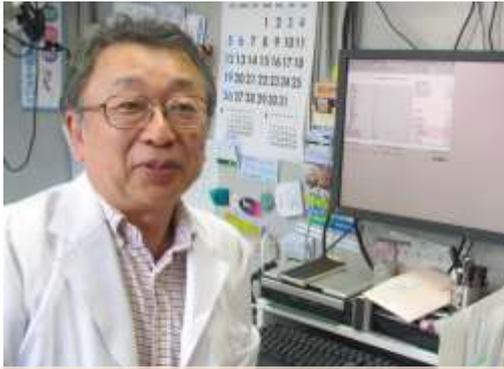
A. 趣味ではないけど、剣道六段、居合道四段。

Q. 座右の銘

A. 「剣医一如(けんいいちによ)」が医者で剣道をする人たちの合言葉です。剣道(武道)の本来の目的は、日々稽古修行をして自分自身を律し、その技を人を助けるために使う事です。剣術家柳生宗矩は「活人剣」という言葉を残しました。それは剣をもって人を助け、人の役に立つというもの。

医者も一緒に、日頃から勉強して自分自身を律しないと人を助けることができない。「剣道の心も医者の心も一緒なんですよ。だから一所懸命剣道もしながら一所懸命医療を行う」ことが「剣医一如」の意味です。「とにかく何事にも人のために一所懸命やりなさい」という教えです。それは剣道だけでなく全ての道に通ずることだと思いますし、全ての日本の道とつくものはそうなんじゃないかな。

長崎市では日常にあじさいネットがある風景を当たり前にしていきたい。



・ DOCTOR'S PROFILE ・

S51年 長崎大学医学部卒
H 5年 藤井外科医院開業
H21年よりあじさいネット会員
長崎市医師会副会長
長崎在宅Dr. ネット理事長
長崎市あじさいネット準備委員会 委員

誰もが入会でき継続性のあるネット
ワークを長崎市で展開したい

長崎市内で、統一した医療連携ネットワークを構築するため、長崎市医師会、長崎市内の十数の拠点病院と一緒に、五年間に亘り会議やアンケート調査を重ね、中身を詰めていきました。

皆が自由に入会できるネットワーク、継続性のあるネットワークを作りたいというコンセプトの元、五年前「あじさいネット」を導入しました。

大村と長崎から、将来的には長崎県下全域に拡げようという意気込みでした。今、徐々に理想に近づきつつあります。

日常にあじさいネットがある診療

拠点病院から当院にかかりつけの患者さんが退院する際、通常は拠点病院から引継事項の連絡がありますが、従来ならそれを文書で受け取るだけでしたが、あじさいネットを利用すると、

長崎市茂木町
藤井外科医院 藤井 卓 先生

TEL : 095-836-3233

詳細な現状把握ができるので、拠点病院の地域連携室から退院の連絡があった際に、逆に私の方から「ここは問題じゃないの？これを解決してもらわないと退院後の管理は難しいですね。」「この点は調整をお願いします。」といった提案ができ、退院後に向けての調整が適切に行えます。そういった事は以前だったら考えられないですね。

「あじさいネット」は皆の教育の場でもあります。

在宅医療も含めて、医療は病院に入院、入院するだけで完結するわけではありません。病院の外でも、安全に診療情報を共有する方法はないかと思つて皆で模索した末、「あじさいネット」を介したモバイル利用の提案に至りました。

現在、診療情報を閲覧だけではなく双方向に共有することを目的として、メール・タブレットやiPadを用いた試験運用を行つています。この取組みが実現すれば、在宅医療に新たな可能性が生まれると考えています。

例えばレントゲン機器や心電図は、どこの診療所にもあります。長崎市の医療現場では、これらと同じように、あじさいネットを診療情報共有と通信機器を兼ねたツールとしてあつて当たり前環境にしていきたいです。

また、あじさいネットは皆の「教育の場」だとも思っています。あじさいネットに参加することによってセキュリティ、ネットワーク、医療連携、新しい知識といった色々な事を学ぶことで皆が教育されていくと思ひます。

「あじさいネットとは皆でアイデアを出し合つて色々な夢を実現できる場」

当初からあじさいネットに関わつてきて、あじさいネットは、単なる医療連携のシステムではなく、色々な可能性がある。

皆で色々なアイデアを出し合つて、それをあじさいネットに携わるベンダーの方々も一緒になって切磋琢磨しながら実現化してくれる。自分たちのためだけじゃないから楽しい。

皆それぞれ自分の意見を好き勝手に出し合いながらも継続して使われているのは、やっぱり何らかの芯があるからでしょう。そうじゃないと、例えばあじさいネットが単なる便利なものという捉え方であればここまで続かないと思ひます。

最近、長崎市のあじさいネットに携わるメンバーと飲みながら「あじさいネットは、確固たるポリシーの上に皆のアイデアや思いというソフト面を持ち合わせているよね。だから、あじさいネットというシステムを、単に他地域にもつていっても、あじさいネットにはならないよね。」といった話をしたんですよ。

在宅医療も新たな分野の挑戦は、決して特殊なことではなく当たり前前に淡々と



私は、長崎在宅Dr. ネットで新たな在宅医療体制作りにも取り組んでいます。在宅医療もあじさいネットでの新たな分野への挑戦も、皆大変な事と思われています。でも、そういった事を頑張つて成し遂げるのではなく、普通に淡々としていきたい。そして自然体で結果がついていくようにしたいと思ひます。

『薬剤師の在宅訪問』にあじさいネットを活用しています。



・佐田 悦子 先生 PROFILE・

S57年 福岡大学薬学部卒
H14年 アクア薬局開局
H24年よりあじさいネット会員

入会のきっかけ

長崎県薬剤師会会長の宮崎先生に勧められて入会しました。薬局では患者さんが持参される処方箋1枚から、薬の内容、患者さんの病態を考えて服薬指導します。あじさいネット利用により検査データとか傷病名が分かるだけでも全く違ってくると思います、入会しました。

『あじさいネットのいい所』

検査値を確認でき、患者さんの生活習慣も考慮にいれて服薬指導ができる

やっぱり一番大きかったのは検査値を確認して服薬指導出来ることです。

また、看護サマリーも非常に役立っています。生活習慣や嗜好によっても、服薬指導は随分変わってくる場所があります。投薬時、患者さんがどういう生活習慣の中でお薬を飲んでおられるかは全く分かりません。あじさいネットを利用すると、その方の食事の摂取状況や睡眠の状態といった生活が看護サマリーを通して知ることが出来ます。

長崎市田中町 アクア薬局 本店 佐田 悦子 先生

TEL : 095-813-3444 E-MAIL: aqua@mountain.ocn.ne.jp

「あじさいネット」在宅訪問で活躍

あじさいネットは、窓口業務で利用する事もあります。私の場合、在宅医療の活用が大きいです。

在宅の患者さんの中には、在宅診療と併診で大病院や市民病院に検査のため通院されておられる方もいます。あじさいネットを利用して、そういった方の検査の実施状況を把握する事は服薬指導の参考になります。その他にも抗がん剤を使われている患者さんの投与薬の種類や投与スケジュールも事前に確認できますので、状況にあったより具体的な服薬指導ができます。

また拠点病院を退院されて来局される患者さんに対して、あじさいネットで得られる正確な投薬内容を元に、継続した服薬指導に利用しています。

薬剤師の在宅訪問の意義

私が在宅医療に取り組むきっかけはP・ネットでした。P・ネットで最初に依頼を頂いた患者さんがこの東長崎地区で、在宅訪問に行くようになって約5年になります。

定期的に来局される患者さんは、きちんと服薬されている前提を元に服薬指導しますが実際にご家庭に行ってみると全く飲めていない状況が発生していたりと、在宅訪問を行うようになってそういった窓口業務では分からなかった事が次第に分かるようになってきました。その患者さんがどういった生活をしているのかも基準に入れてお薬を見るようになって、服薬指導自体が変わってきましたね。

在宅訪問は患者さんのベッドサイドまで行

◇佐田先生のモットー◇

私はとりあえずNOという事はないようにしたいなど。だから例えば訪問依頼があっても、断るという事はせず、とりあえずOKしてから考えます。それで結構自分の首をしめる事もありますが(笑)

それと、もう一つはあらゆる物事に感謝するという事。在宅訪問は大変な事も多いですが、患者さんが「ありがとう」と言ってくると良かったなと思います。患者さんから教わることっていっぱいありますし、何とかしたいという思いから勉強しようって思います。そういった意味では出会った人とあらゆる物事に感謝したいなと思っています。

趣味はゴルフですが・・・なかなか時間がとれないですね



あじさいネットに期待すること

急を要する時には、すぐ担当医師に電話連絡しますが、判断がつかない時は、拠点病院の先生方はお忙しいので連絡するタイミングを悩むんですね。長崎在宅Dr. ネットの先生方とは、Dr. ネットが提供するメールサービスを使って連絡する事がありますが、すごく有効です。このため、今後導入予定されているiPad上からこのようなメールが利用できて、先生方の手が空いた時にお返事頂けたりとか、指示が必要であればそのままご連絡頂けるといった双方向の連絡網みたいなのがあればと思います。

*P・ネット..長崎薬剤師在宅医療研究会

情報提供病院のご紹介

長崎県上五島病院 地域医療連携室

長崎県上五島病院は、平成23年7月に診療情報提供をスタートしました。
「地域と共に歩み、信頼され親しまれる病院」を基本理念としています。

◆◆ Message / 八坂 貴宏 病院長 ◆◆



DOCTOR'S PROFILE

S63年 長崎大学医学部卒
専 門：外科
H19年より現職
有川医療センター所長 兼任
奈良尾医療センター所長 兼任

五年間に渡り地域医療改革を実践

上五島地域は、新上五島町が一つの行政圏であり、二次医療圏でもありますが、近年他地域に先駆けて、過疎化と高齢化の課題に直面しています。

そこで、平成十九年より行政、病院、診療所一体となつて様々な地域医療改革を実践してまいりました。

まず、病院の診療所化、有床診療所の無床化を進め、上五島病院を二次医療機関の中核として位置付け、一次医療（外来）と二次医療（入院）の円滑な連携を確立しました。

同時に、医療情報ネットワークのインフラ整備を進めました。当院では平成十六年に電子カルテ化しましたが、病院を診療所化する際、当地域で中心的な一次医療機関である有川医療センター、奈良尾医療センターにも共通の電子カルテを導入し、光ファイバーで結ぶことで、有益な医療情報連携を図りました。

今後、地域内の医療連携に関しては、光ファイバーを利用した直接の連携と、あじさいネットとを上手く組み合わせながら進めたいと考えています。

医療再編により提供する医療の質と、安全

性は確実に高くなりましたが、住民のご意見も多く頂きました。アクセス面の低下といった課題に対しては、行政と協議の上、交通費補助等を実施、現在は付添用宿泊施設の計画に取り組んでいます。地域医療では、住民のニーズが一番大切です。地域の皆さんと対話をしながら、地域特性にあった必要な形を構築していく事が重要だと考えています。

介護福祉、病病連携でのあじさいネットの活用に期待

あじさいネットは現在、介護老人保健施設の主治医が、入院時や退院後に利用し介護ケアに活かしたり、近隣の薬剤師が服薬指導に活用しています。

今後は、介護福祉現場で円滑な連携の仕組み作りに活用したいです。あじさいネットによる情報共有が、介護福祉関連の施設間で可能になると、継続性のあるケアを行える上、疾病の予防や服薬管理等の安全対策にもつながります。ただし、その際は、医療従事者の職種によって情報開示の範囲を明確にした上での共有が不可欠になると考えています。

病病連携は、あじさいネットスタート時からのご念願です。当院からは長崎大学病院、長崎市民病院、日赤原爆病院と行き来する患者さんが多いですから、非常に期待しています。

また、当院からのドクターヘリ救急搬送は年間四、五十例あり、長崎大学病院あるいは長崎医療センターに搬送します。島外の病院にドクターヘリが到着する前に、当院の電子カルテを搬送先の主治医が閲覧できれば、すぐに治療にはいれるものと思います。

● 地域医療連携室より

《診療所の先生方へ》

登録作業は、おおむね5分内で完了しています。送られてくる同意書で、フリガナ、性別等の記載されていない事があり確認に時間がかかる事がありますので、送る前に今一度確認をして頂ければ助かります。また本院の患者番号を記入して頂けると更に助かります。

《不具合時の対応》

SECさんに迅速に対応して頂いており、特に問題なく運用しています。

《その他》

当院は、医師の入れ替わりが多いので、毎年4月の段階で運用講習会を開催して頂ければ助かります。

また、高齢の患者さんも多いので、同意書を取得する際、あじさいネットの説明を分かりやすくご理解頂くため、マンガのような伝わりやすい資料があったらいいですね。



前列左から本村看護部長、八坂院長、下山看護師長(連携室)
後列左から福島(財務)、平瀬(連携室)、大川(連携室)
少子高齢化の先進地域であり、日本の将来像に近い離島の医療は、地域医療の最前線であり、ここで成功した医療は一つのモデルになると考えています。

「あじさいネット」キーパーソンに聞く

ID-Link 開発者

SEC

伊藤 龍史氏

「あじさいネットと共にアイデアを実現していく」

患者さん視点からのシステム開発

《患者者を中心として、複数の医療者で連携して診るシステム》を形にしたものが、ID-Linkです。

当時、複数の医療機関を結ぶ連携システムは、世の中にはなかったですし、作るのには非常に難しかったですね。夜9時〜朝3時まで勉強と開発に充て、始めて1年半はなかなかうまくいかないで、私は開発センスがないんだなと思っていたある日、光が差したように「ああ何となく分かったような気がする」とひらめきがあり、その後2年間かけて出来上がったのがID-Linkです。

柴田真吾先生との出会い

—あじさいネットとの始まり—

どこからか開発を依頼されたのではなく自分が作ってみようと思ひ、出来上がったのがID-Linkですから、当初引受け手がありませんでした。ちょうどそんな時、市立大村市民病院の柴田先生がID-Linkの事を偶然人づてに聞いて「ID-Linkのようなシステムを何年にも渡って探していたと、当社がある函館まで来てくれました。」

実は、柴田先生と会う約束をした日、私は二日酔いの状態でろくに話すこともできず・柴田先生は呆れて「こんなヤツ見たことないな」と笑ってくれ「大体どんな人間が作るか分かったから長崎に來い。」と

いとう りゅうじ

言われ、長崎を訪れた時からあじさいネットとの付き合いが始まりました。

ID-Linkを最初に使ってくれたのはあじさいネットですので、長崎の皆さんには、ID-Linkを育ててもらった思いが強いです。システムの改善は、実際に使う方の要望に對して、私たちが応えるフィードバックの積み重ねがないといいものは出来ません。

あじさいネットは、全国の医療連携システムのの中で、一番的つながりが濃密な集団だと私は思っています。多分地理的条件や環境がいい事、長崎大学のポジションがすごく明確だからかな。皆、長崎が大好きな人がいっぱいいて「長崎が一番いいんだ！」という強い郷土愛があり、その濃密な中で、仲間同士であじさいネットをどうするかを考えているのでとても面白い。実際、私も一緒にやりたいなと思えるアイデアが上がってくるのは長崎です。あじさいネットは、僕の中の一部というか重要なパートナーのようなもの。一番適した表現は同志でしょうか。

今年五月に開催されたあじさいネット研究会で発表された先生方のトップランナー的発想は、全て私の想定範囲内のもので、自分自身必要だと考えるアイデアばかりでした。

今後あじさいネットからの要望に私たちが加えながら一緒に更にいいものを作っていきたいですね。

ID-Link 独自路線の実践

IT業界は、機能を追加するたびに全て追加費用が発生するのが常です。ID-LinkはそういったITベンダーと一線を画して独自の路線にチャレンジしています。毎月一定額さえ払ってくだされば、その後どんな機能を追加して便利に進化したとしても、それらに対する請求は1円もありません。

要望は全国各地から上がってきます。私はただ単に要望に応えるのではなく、相手の話をめいっばい聞いて、その要望の意図を一人ではなく多くの方々に對して汲み、自分で考え、多くの方が納得する答えを出し、必ず実現すると決めています。

このため開発期間も短期のものから2年間とか、4年くらいのももあります。たいていは半年、一年準備し、平行していくものがいくつもあります。《マイペースで必ず動く・困っていたら必ず対応する・その中で少しづつ機能を増やしていく》として《システムを止めない》ことを実践しています。ID-Linkの停止のお知らせは、MLに流れたことはないと思います。

また、運用中のどんな小さなエラーでも当社にメールが届くようになっておりますので、その時点で対応しています。当社は画一化したマニュアルは、敢えて作っていません。スタッフには、その都度自分でよく考え、柔軟で丁寧な対応ができるよう接遇の教育をしています。

そのせいか、例えば他社製品にID-Linkが持たない機能があつたとしても「伊藤さんなら期待以上のものを作ってくれるから私たちはただ待ってればいい。しかもオプション料金も発生しないしね。」と樂觀的

に言ってくださる顧客の方は多いですね。

伊藤氏が考える今後の医療連携の行方

社会の動向としては、ITを使った医療連携をすすめる方向ですが、補助金がなくなる五年後には、現在の1/3〜1/5の資金で運用を行う必要があります。医療連携システムがこれだけ定着しつつある中で、システムの維持は必須です。一つの方法論としてITベンダーがサービスのコストダウンによりこれを支えていかないと継続は難しいと考えています。今から五年、十年が頑張りどころだと感じています。

全国的にみて、地域医療連携システムの日常的な利用率は会員の約3割です。私はこの利用率を引き上げるきっかけは患者さんにあると考えています。それは患者さんが連携システムを認知すればいいのです。「昨日大学病院に行つて検査結果見れるって聞きましたが、見れますか？」と来院される8割の患者さんから言われたいですね。

◆伊藤氏にとってあじさいネットとは？◆
同志・立場は違いますが、ヘルスケアITに對する志は同じです。これからは『あじさいネットのメンバー(仲間)の伊藤さん』と皆さんに思つて頂ければ嬉しいですね。



左からNTTデータ石黒氏、SEC伊藤氏、市立大村市民病院 柴田先生

「ヘルスケアITの領域でやるからには、日本製の何が残るみたいなのがあつていいんじゃないかな。」と語る姿がとても印象的でした。

「あじさいネット」のインフラを利用した高品質遠隔画像診断

うえたに まさたか
長崎大学病院放射線科 上谷 雅孝 先生



写真右から長崎大学病院 河野 茂病院長、放射線科 上谷 雅孝教授
NPO法人長崎画像診断センター前にて

長崎大学病院に「NPO法人長崎画像診断センター」設立

この4月から長崎大学病院放射線科ではNPO法人長崎画像診断センターの運用を始めました。地下1階のMR検査棟の一室に専用の画像サーバと読影端末があり、あじさいネットのVPNネットワークを利用しています。

センターの設置にあたっては、河野病院長、医療情報部准教授の松本先生や、あじさいネット事務局及びあじさいネット拡充プロジェクト室の方々にはさまざまな助言、ご支援をいただきました。また、県からもご支援いただきました。感謝いたします。

CTやMRIなどの画像診断の撮影件数は年々増加し、しかも要求される診断の質は高まっています。しかしながら、放射線科医の数は十分でなく、特に離島や遠隔地における画像診断専門医不足は深刻なものがありません。

こういった状況に 대응するため、各地で遠隔画像診断が行われていますが、そのレベルはさまざまです。

このセンターの特徴は、放射線診断専門医が、大学病院の中で病院からお借りした専用室にて遠隔画像診断を行うという点です。

これにより人材を有効に使い、専門性の高い領域にも十分対応できるようにしました。

専門性の高い症例は

二重読影で更に所見をチェック

難しい症例は二重読影という形で、更に専門性の高い放射線科医に所見をチェックしてもらっています。したがって、放射線科常勤医がいる病院でも、専門性が高い症例のコンサルトを受けることで、より質の高い画像診断を行うことが可能です。

◆◆今後の課題について◆◆

マンパワー不足のために読影件数に制限があること、夜間・休日の救急症例に対応できないこと、各病院のオーダリングシステムや電子カルテとのデータ連携に別途費用がかかることなど、いくつかの課題がありますが、今後改善を図っていくつもりです。



高品質遠隔画像診断システム
モニターを前に診断中の上谷教授
(於：NPO法人長崎画像診断センター)

◆◆今後に向けて◆◆

遠隔画像診断だけでなく同時にあじさいネットに導入されたテレビ会議を使い画像診断勉強会などを開催することができればと思っています。

あじさいネットの一環として、地域医療のさらなるレベル向上に貢献することが我々の使命です。まだ始まったばかりですが、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

【記 上谷 雅孝

長崎大学病院 放射線科】

◆「高品質遠隔画像診断システム」の概要◆

高品質な診断の実現を掲げ、長崎大学病院放射線科にNPO長崎画像診断センターを設け、グループ診断、ダブルチェックに加え、あじさいネットの高セキュリティVPNネットワークを利用した複数施設での画像診断による業務分担、および高度な専門性が要求される画像に対して超専門診断を可能としたシステムです。6月現在で県内の9施設が利用しています。

あじさいネットに新たな機能が導入 離島・救急医療支援システム／高品質遠隔画像診断システム 「あじさいネットのVPNネットワークを利用しています。」

長崎県では平成2年より、離島で撮影した画像を国立長崎医療センターおよび長崎大学病院に伝送する遠隔診断サービスが行われてきました。

今回、システム更新に伴い機能向上に加え、高品質画像診断システムが構築されました。これらのシステムはあじさいネットのVPNネットワークを利用しており、今年度より運用が開始されています。

主に離島医療・救急支援システムを担う長崎医療センターと、高品質遠隔画像診断システムを中心に担う長崎大学病院にそれぞれシステムサーバーを導入し、共通のアプリケーションおよび相互バックアップが可能なシステム体制が整備されています。



◆「離島医療・救急医療画像支援システム」の概要◆

離島医療・救急医療支援システムでは、簡単な操作で、画像と依頼文書の電送ならびに DICOM データを利用することで従来以上の高品質な画像の伝送が可能になりました。県内離島地域の 13 施設と連携するシステムとなっています。

【導入医療機関】

- 長崎県五島中央病院
- 長崎県上五島病院
- 壱岐市民病院
- 長崎県対馬いづはら病院
- 長崎県中対馬病院
- 長崎県上対馬病院
- 長崎県富江病院
- 長崎県奈留病院
- 小値賀町国民健康保険診療所
- 佐世保市立総合病院宇久診療所
- 国民健康保険平戸市民病院
- 平戸市立生月病院
- 医療法人 玄州会 光武内科循環器科病院

◆◇新規の情報提供病院のご案内◇◆◇

- 長崎労災病院が平成 25 年 5 月 1 日より情報提供病院として運用を開始しました。
- 虹が丘病院が平成 25 年 6 月 1 日より情報提供病院として運用を開始しました。

4/20（土）長崎県医師会情報システム委員会にて、初 TV 会議開催

メイン会場：長崎県医師会館 2F 第一中会議室

諫早医師会、大村市医師会、杵岐医師会、五島医師会が遠隔参加

テレビ会議システム運用開始に向けて

長崎県医師会常任理事 牟田 幹久

この度、4月20日（土）よりあじさいネット拡充事業の一つとして、テレビ会議システムの運用が開始されました。

長崎県は、離島を抱えた上に南北に長く、県全体の会議を行うには非常に不都合であり、遠方の先生方には多大なご迷惑をおかけしておりましたが、このシステムのおかげで、県医師会館まで来館いただかなくとも会議に参加いただけるようになります。県医師会と郡市医師会の距離を縮め、今まで以上によりよい意見交換が行われるようになるものと期待しております。

また、本システムは、会議だけではなく、県医師会館にて行われる各種講演会を発信することも可能であり、地域の先生方の生涯教育・産業医研修など、先生方の日々の研鑽にご活用していただけたらと思っております。

その他、先生方同士が本システムを使い症例検討会や他職種とのグループミーティングを行うことも可能になりますので、日々の診療にも役立つツールとなるよう、今後発展させていくつもりです。

皆様のお役に立つシステムとなるよう鋭意努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



5/11（土）第4回あじさいネット研究会 リポート

～切れ目ない地域医療を目指して～

IT ネットワークを使った医療連携の課題と今後の展望

メイン会場：長崎県医師会館 2F 講堂・第二会場 3F 大会議室 /16時～19時半

遠隔参加/五島中央病院、上五島病院、在宅患者宅、長崎大学病院（NPO 法人長崎画像診断センター）

5月11日（土）、長崎県医師会館にて、第4回あじさいネット研究会が開催されました。全国より229名の方にご参加いただき、メイン会場は立ち見の方もみられ、館内は多くの来場者で賑わいました。今回、初企画として、あじさいネットの新機能として開発した「TV会議システム」を使い、離島の2病院、在宅患者宅、長崎大学病院の長崎画像診断センターとメイン会場を結び、LIVE中継を行いました。また、各拠点からの動画をiPadだけで会場へ配信できたことが驚きを呼び、大きな話題となりました。

■第一部では、あじさいネットの小尾 重厚会長はじめ、厚生労働省より医政局研究開発振興課医療技術情報推進室長 渡辺 顕一郎氏、長崎県福祉保健部長 濱本 磨毅穂氏らによるご挨拶をいただきました。

■第二部では、長崎大学医療情報部准教授 松本 武浩先生による、「あじさいネットの新システムの紹介とデモンストレーション」をTV会議システムを使って中継し、五島中央病院とNPO法人長崎画像診断センター（長崎大学病院）間での、実際の「遠隔画像診断」の様子や、在宅医療患者宅での診療イメージの様子をiPadで撮影し、全拠点との仮想TV会議を行う等、ITを使った「近未来型の医療連携像」をドラマ仕立てのユニークな演出で提案いたしました。

■第三部では、本研究会のテーマである「医療連携の課題と今後の展望」をベースに、牟田 幹久先生、田崎 賢一先生、木村 博典先生、藤井 卓先生による研究発表が行われました。

■第四部では、特別講演として、日本医師会常任理事 石川 広己氏による「IT戦略とORCAについて」をテーマに、また、日医総研主任研究員 矢野 一博氏による「日医認証局について」の講演が行われました。

■第五部は、最後に厚生労働省医政局指導課在宅医療推進室長補佐 奈倉 道明氏による講評・総括で、締めくくられました。





HOGY®

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



これからの「医療」を考えています。

Empowered by Innovation **NEC**

地域に分散した診療情報を統合して共有するネットワークサービスで地域医療連携をご支援します。

NECの地域医療連携ネットワークサービス

まずはWebで、詳細情報を。www.megaok.com/ **【検索】**

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル) TEL. 03(3798)6756

人と地球にやさしい情報社会へ

<http://www.nec.co.jp/>

Good Health Creator, MEDical+sciENCE

独自の事業スタイルを基盤として
ヘルスケア分野に新たな潮流を生み出します。

東日本大震災に被災された皆様に対し、速くお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



□ 事業内容

- 臨床検査
(生化学的検査・血液学的検査・生化学的検査・微生物学的検査・遺伝子関連検査・病理学的検査・その他検査)
- 予防医学関連サービス
- 医療関連サービス
- 体外診断用医薬品・体外診断用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品・化学品の毒性試験、薬効薬理試験
- ヒト観察による薬効・毒性評価
- 遺伝子・タンパク質解析
- 医薬品・農薬・化学品・食品添加物・化粧品等における安全性評価・環境/リスク評価サービス
- 食の安全サポート
- ドーピング検査

三菱化学メディエンス株式会社

〒108-8559 東京都港区芝浦四丁目2番8号
TEL.03(6722)4000(代表)

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が **50,000 円** 必要となります。尚、初期設定費用として別途 **30,000 円** を承ります。

2. 利用料金

月々4,000 円（レセプトオンライン請求も希望の場合は **5,000 円**）と**年3,000 円**のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

*TV 会議、遠隔画像診断支援システムの回線のみのご利用の際も同額の料金となります。尚、遠隔画像診断支援システムのデータ連携には別途料金がかかります。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ（NTT 西日本ホームテクノ九州）が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内)担当：三浦、苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110



藤井先生は、今回、中面記事にてご紹介しています。
詫摩先生いつも楽しい作品ありがとうございます。

編集後記

「あじさいネット」はこれまで、病診連携及び、病薬連携における診療情報共有を主体に運用して参りました。これにより「かかりつけ医・薬局」では、様々な医療機関に分散した診療情報を、貴重な医療リソースとして集約管理でき、患者が他院入院中であっても経過が詳細に把握でき、「かかりつけ医」として見守ることができるため、長崎の地域医療は大きく変わることになるでしょう。さらにここに来て、新たな機能の登場となりました。救急医療画像支援システムと高品質画像診断システム、そして、あじさいネット専用の TV 会議システムです。これらのシステムは、画像診断という強力な診療支援を救急時と平時で高度に実現、TV 会議を使うことで医師間、医師会間、医療機関間を従来とは比較できないレベルで緊密化させる強力な武器となります。今後有効活用することで、長崎の医療はさらに発展するものと確信しています。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 ajisai-project@nagasaki.med.or.jp
最新の情報は、HP をご覧ください。http://www.ajisai-net.org/